

第1回 事前調査検討専門部会 議事録 (案)

日時：2003年9月9日(火) 15:00～18:10

場所：海洋科学技術センター東京連絡所セミナー室

出席者 (敬称略)

部会長：金田義行 (JAMSTEC)

委員：芦寿一郎 (東大海洋研)・荒井晃作 (産総研)・加藤幸弘 (海上保安庁)・
佐藤比呂志 (東大地震研)・田沢章広 (帝国石油)・辻喜弘 (石油公団)・

オブザーバー：岡野正・笹川清一・倉本真一 (以上、JAMSTEC/CDEX)・沖野郷
子 (東大海洋研；iSSP co-chair)

コンソーシアム担当者：徐垣 (JAMSTEC)

事務局：西川徹 (AESTO)

欠席委員：金松敏也 (JAMSTEC)・中西正男 (千葉大学)・日野亮太 (東北大学)・
山本啓之 (JAMSTEC)

議事内容：

はじめに (金田部会長)

簡単な挨拶と部会の目的について説明があった。

1) 委員自己紹介

2) 事前調査検討部会の趣旨説明

(コンソーシアム全般：事務局、この専門部会について：徐執行部員)

事前配布資料に基づく、コンソーシアムの設立以降の活動報告があった。

また、全体の枠のなかで本部会の位置づけが説明された。

3) IODPを取り巻く現状

3-1) IODPの現状 (9月札幌会議を含めて) (徐SPC委員)

10月のIODPの設立に向けての動きや、特に9月の札幌SPC委員会の説明があった。

3-2) 「ちきゅう」の建造状況について (岡野オブザーバー)

添付資料に基づく以下のような説明があった。

- ・船上での種々の装置の作動確認が進んでいる
- ・2004年10月から基本性能の確認
- ・2005年の10月に慣熟訓練が開始 (ライザーレスで航海する)
- ・2006年10月末国際運用
- ・石油ガスの生産試験の装置は積み込んでいない。
- ・予算状況により変更が考えられる。

3-3) その他国内の情勢

海洋研サイスマックリサーチセンターの現状 (芦委員)

- seismic research center : IODP事前調査、VSPやcore-log integrationに活用したい。
- 3D seismic analysisのため使用規則や使用機材の紹介
- 将来的には外からのアクセスを可能としたいが現在は外部からアクセスできない。ソフトの問題があるが、将来的には外側からのアクセスが可能になりたい。
- 事前調査データ処理を行う場合には、ユーザー側がSEなどの準備が必要。
- 横浜研究所地球シミュレータセンターの課題選定委員会で申請課題が承認されれば地球シミュレータ上でデータ処理を行うことは可能である。ただしその前提として地球シミュレータ上で動かすソフトウェアの最適化が不可欠である。

3-4) 「ちきゅう」の慣熟訓練海域について (岡野オブザーバー)

- 調査項目事項とoperation
- 「ちきゅう」の慣熟訓練ライザー掘削を下北半島東方沖で行う。
- 水深1kmと2km海域で事前調査を行った。
- ガスハイドレートや異常振幅層が出ている。
- 浅海域で再調査(浅層)を行う。
- 地震探査記録高精度地震探査記録(100m間隔)と従来の記録(2km間隔)との比較
- 事前調査項目とその調査順序に関する議論がなされた。

3-5) 大陸棚調査について (加藤委員)

- 調査の概要この4年間で行う計画案の説明。
- 地形調査、地殻構造調査、基盤岩採取の3項目の調査を行う。
- 来年度の調査量: 900km水路部
- データを活用できるのか?

IODPの事前調査の基礎資料として使えるのか?

海域・場所によって違う。平成21年申請が認められた後には全て公開。

しかし、それ以前には問題があるかもしれない。

ただし、一部のProcess dataについては学術論文として公開されるのが、Raw dataについては難しい。

大水深調査と現在の大陸棚計画測線に重複がある。今年の大水深調査に関しては大陸棚計画測線上で実施される予定。

大陸棚調査の進捗状況の公開はない。

他の機関でとられたデータを一元化については、作業用のデータベースをどうするのが今後の問題。

3-6) 東南海・南海調査観測計画(5年間) (金田委員長)

- 地震防災課による、東南海・南海調査観測研究が開始 H15年度からH19

年度まで文科省

- ・ 南海トラフ熊野灘において3D的な調査を計画。
- ・ 石油公団によるGas hydrateに関する2D探査が行われており、使用申請を行われれば使用が可能。この9月を目処に公開を考えている。今年度はボーリングを計画。基礎試錐の原則を、コア検討会を行う。（辻委員）

3-7) 探鉱連絡会議（辻委員・田沢委員）

- ・ 民間石油会社での探鉱情報の交換を行っている。深部探査の情報を交換している。
- ・ 今後可能な限り協力をしていきたいが守秘義務もある。
今後、産業界とJ-DESCとの関係構築をはかる為には、より各社の上層部との話し合いが不可欠。（徐執行委員）
- ・ 産業界からのacademicに関連したproposalを提案する議論もある。
- ・ これまでの深部探査測線図の公開の動きもでてきている。

4) IODP国際パネル（SSP）への対応

4-1) iSSPの活動（沖野オブザーバー）

資料に基づき現在のiSSPの抱える問題が紹介された。

- ・ データバンクに関する仕様について
- ・ 検討項目マトリックスの検討特にPPSPとの仕分けと所掌事項の整理
- ・ 3D調査の必要性の検討

4-2) 10月以降のSSP委員候補の選任について

sequence stratigrapherの分野の委員が必要。

- ・ 1期2年、2期を原則とする（最低2年）。alternateを置く。
- ・ 委員候補者にはマンデートを含め事前説明が必要。
- ・ 委員の数は現行でよい。（5名プラス1名alternate）
- ・ iSSPからSSPの移行に伴い委員の変更を行う。2名継続、2名交換。alternateを1人置く。

5) 事前調査の現状（金田部会長）

次回まで金田がまとめて報告する。

6) 今後の事前調査の実施／課題について（全体討議）

（本部会のマンデートおよび今後の活動方針の検討）

7) 16年度以降の事前調査検討部会の体制（金田）

6)・7)については次回までに意見あればメール等で金田部会長に伝える。次回会議にて検討。

8) その他

次回の開催は11月中旬を予定。

JAMSTEC/CDEXの岡野正氏を委員とすることが了解された。事務局がIODP部会幹事会に承認を求め、必要な手続きを行う。